

# 女性情報ポータル再構築のための現状分析と 機能仕様の設計

安達一寿・青木玲子・尼川洋子・大西祥世・森 未知

## ＜ キーワード ＞

ポータルサイト、女性情報、データベース、情報提供、シソーラス、コンテンツマネジメント

## ＜ 要 旨 ＞

「女性情報ポータル再構築プロジェクト委員会」は、使い勝手が良く信頼性の高い「女性情報ポータル」を再構築するために、女性情報提供の現況調査や国立女性教育会館（以下 NVEC）の保有する各データベースへのニーズ調査などを行い、「女性情報ポータル」として備えるべき内容、機能、仕様、運用について検討を行った。初めに、インターネット、女性関連施設などから提供されている女性情報の現状調査と利用者に対する現状の情報提供に関する評価をモニター及びアンケート方式で行い、今後のポータル利用想定者とそのニーズに関する分析を行った。次に、ナショナルセンターとしての NVEC が提供する「女性情報ポータル」の役割として、グローバルな女性情報ネットワークのフォーカルポイントとしての役割、多様な利用者に対する操作性の確保、既有データベースと情報検索システムの改良による資源の活用などの再構築方針を決定した。同時に、「女性情報ポータル」の持つべき機能を、分析結果より抽出し、「女性情報ポータル」に必要な要素として、アクセス支援、情報検索、ナビゲーション、コミュニティなどの観点から検討を行った。それらの結果より、「女性情報ポータル」が持つべき機能仕様が策定でき、サイト構成の原案、並びにポータル再構築に必要な設計を行うことができた。この「女性情報ポータル」を構築することにより、多くの利用者に対して有効な情報提供が可能になると考えられる。

### 1. はじめに

近年の IT 環境の進展と共に、インターネットで提供される情報量はますます増大し、女性情報の分野でも情報入手の手段が紙媒体から電子メディアへと拡がっている。それに伴い、女性教育情報センターにも従来の資料収集、提供、保存だけでなく、資料・情報のデータベース化や電子情報へのアクセスを組織化していく役割が求められるようになってきた。一方、様々な情報提供サービスの分野でも、効率よく必要な情報を得るためのアクセス支援として、ポータルサイトの提供が普及してきている。このポータルサイトは、無数にある Web サイトの情報を整理し、ある事柄やトピックに関連した情報を効率よく検索できることを

目的に構築される。特に、特定の専門分野に関するポータルサイトでは、そこで提供される情報の鮮度や質の充実が期待されており、同時にその構築に伴う分析などにより、当該分野の研究資源として大いに活用されることが期待できる。

国立女性教育会館（以下 NVEC）は 1987 年「婦人教育情報センター」の開所以来、文献情報データベース、女性関連施設データベース、女性学・ジェンダー論関連科目データベース、女性と男性に関する統計データベース等のデータベースを独自に構築し、提供してきた。また、2000 年からは、国内外の女性情報関連ホームページや Web 上で提供されているデータベースの横断検索ができるポータルサイトとして

「WinetCASS (ウィネットキャス)」を開発し、提供している。そして2002年にはホームページ上で使える「女性情報シソーラス」を完成させ、順次「WinetCASS」への組み込みも進めてきた。NWECの情報事業は女性情報のナショナルセンターとして、国内外の女性と家族に関する情報の収集・提供と国内外への女性情報の発信基地の役割を担って、データベースの構築・更新と情報検索システムの提供を行ってきた。そして、これからは国内外の多様な利用者層の女性情報へのアクセスの総合窓口としてのより一層の機能強化が求められる状況にある。特に電子メディアで提供されている女性情報全体へのナビゲーションは、今後のNWECの情報事業の柱となるものである。そのためには新しいIT環境を視野に置いて、5年前に開発された既存の「WinetCASS」と、それぞれ個別に構築されてきた各データベースの使い勝手を見直し、統一性をもたせた新たな開発や改良が必要である。

そこで「女性情報ポータル再構築プロジェクト委員会」は、これまでNWECに蓄積されてきた既存の資源を活かしながら、女性情報の総合案内窓口としての機能を強化し、使いやすく、信頼性のあるポータルサイトを再構築するために、情報サービスをめぐる環境の変化と、男女共同参画社会実現のための女性情報へのニーズの両方を視野に入れながら、「女性情報ポータル」再構築に必要な女性情報の電子メディアでの提供の現況調査やNWECの各データベースへのニーズ調査を行った。同時にその結果を基に、「女性情報ポータル」が備えるべき内容、機能、仕様、運用について検討した。ここに、その調査分析結果の報告と構築に際しての提案事項、ポータルサイト設計の内容に関して報告する。

初めに、ポータルサイトの構築に当たっての女性情報提供の状況調査を、モニター及びアンケート方式でインターネット、女性関連施設ホームページやNWECで提供しているデータベースに関して行った。そしてこれらの分析結果より、「女性情報ポータル」が持つべき機能を抽出し、機能仕様、サイト構成の原案、並びにポータル再構築に必要な設計を行うこととした。「女性情報ポータル」の構築は、男女共同参画社会の形成に向けての様々な取り組みや女性の多様な学習・研究活動に、欠くことのできないものであると考える。

「女性情報ポータル再構築プロジェクト委員会」の

メンバーは、次の通りである。

青木玲子 (越谷市男女共同参画支援センター所長)

安達一寿 (十文字学園女子大学助教授・国立女性教育会館客員研究員)

尼川洋子 (主査：国立女性教育会館客員研究員)

大西祥世 (お茶の水女子大学生生活科学部講師)

高橋由紀 (国立女性教育会館研究国際室研究員)

事務局：情報課 (蔵野由美子、濱田すみ子、森未知、赤嶺良子)

## 2. ポータルサイト構築にあたっての女性情報提供の分析

インターネットで提供されている女性情報の現況の把握のために、国内女性関連施設ホームページやインターネットにおいて英語で提供されている女性情報の事例の分析、並びに、利用者から見たNWECデータベースの評価を行ったので、結果を述べる。

### (1) 国内女性関連施設ホームページで提供されている情報の現状分析

ここでは、女性／男女共同参画センターホームページで提供されている情報内容の調査を行った。

#### ①調査概要

- ・調査時期 2004年11月
- ・対象 女性関連施設データベースにホームページアドレスの記載のあった女性／男女共同参画センター346件のうち、独自の内容があった147件
- ・調査項目 施設の概要、利用案内、催しもの案内、データベース (蔵書、人材情報、グループ・団体情報、その他)、刊行物紹介、男女共同参画統計、掲示板、登録団体一覧、外国語版の有無、リンク集 (女性関連施設、自治体内、他の自治体・省庁、関連グループ・団体)

#### ②結果概要

女性／男女共同参画センターホームページで提供されている情報内容の調査結果度数を表1に示す。

#### ③結果の分析

女性／男女共同参画センターのうち、独自の内容のホームページを持つものはこの調査時点で147件と半分以下であった。その中で施設の概要、催しもの案内は、ほぼすべての施設で提供されている情報内容である。



表1 女性／男女共同参画センターホームページで提供されている情報内容の度数

調査対象	346
女性関連施設DBにHPの記載あり	202
うち独自の内容あり	147
・概要	126
・利用案内	118
・催しもの案内	120
・データベース	40
・蔵書検索	37
・人物	11
・グループ・団体	19
・その他	10
・刊行物紹介	72
・男女共同参画統計	6
・掲示板	14
・登録団体一覧	33
・外国語あり	18
・リンク集	97
・女性関連施設	93
・自治体内	66
・他の自治体・省庁等	76
・関連グループ・団体	33

\* 仙台市は2館共通、横浜市は3館共通、大阪市は5館共通

データベースを提供している機関は40件と、まだ全体の3分の1以下である。その中でグループ・団体情報をもつ機関が19件と約半数を占めているのが特徴といえる。

各地域の女性と男性に関する統計（上記では男女共同参画統計と記載）を掲載しているところはまだ6件と少なかったが、これはおそらく各都道府県の男女共同参画担当部署のホームページに掲載されていることが多いからと推測される。

外国語のページを持っているところは18機関とまだ少なく、その言語のほとんどが英語である。その中で大阪市のクレオ大阪が、利用案内だけとはいえ、英語・中国語・韓国語・子ども向けを擁しているのが注目に値する。

建物を持たないWeb上のセンター「柏市インターネット男女共同参画プラザ 参画eye」は、新しい試みとして捉えられる。女性センターの主な機能である「学習・研修」「交流」「情報」「相談」の4つを、「学習・研修」は女性問題キーワード・自習教材であるパソコン講座・講座・イベント情報の提供、「交流」は毎月テーマを決めたご意見ノートという投稿欄・メーリングリスト、「情報」は国内外のトピックスとして新

聞記事への直リンクの提供、「相談」は相談室への案内・相談窓口の提供など、非常によく考えられたコンテンツである。

また女性と仕事の未来館ホームページでは、後述のニーズ調査で求められていた女性労働に関する判例や、働く女性の統計等のすぐに役立つ膨大な量の情報が提供されている。

## (2) インターネットにおいて英語で提供されている女性情報の事例

次に、インターネットにおいて英語で提供されている女性情報の事例を調査した。

### ①日本の女性情報を発信する英文ページ

日本の女性情報を発信するサイトとしては、下記のもの挙げられる。

#### 1) 情報サービス機関

すでにWebサイトに英文のページを持っている機関やNGO、大学の研究所

- ・内閣府男女共同参画局 [http://www.gender.go.jp/english\\_contents/index.html](http://www.gender.go.jp/english_contents/index.html)
- ・女性と仕事の未来館 <http://www.miraikan.go.jp/english/index.html>
- ・福島県男女共生センター「女と男の未来館」  
[http://www.f-miraikan.or.jp/index\\_e/e.htm](http://www.f-miraikan.or.jp/index_e/e.htm)
- ・かながわ女性センター  
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/0050/toppage/english.htm>
- ・愛知県女性総合センター「ウィルあいち」  
<http://www.will.pref.aichi.jp/main04/main04.html>
- ・京都市女性総合センター「ウィングス京都」  
<http://wings-kyoto.jp/eng/index.html>
- ・市川房枝記念会 <http://www.ichikawa-fusae.or.jp/110/index.htm>
- ・日本女性学習財団 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jawe2/JAWEpamphlet2004.pdf>
- ・アジア女性交流・研究フォーラム <http://www.kfaw.or.jp/english/index.html>
- ・お茶の水女子大学ジェンダー研究センター  
<http://www.igs.ocha.ac.jp/igs/indexE.html>
- ・愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所 <http://www2.aasa.ac.jp/org/igws/english/index.html>
- ・日本家政学会 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshe/>

Ehome.html

- 2) 英文ニューズレターを発行している機関のサイト
  - ・内閣府男女共同参画局「Women in Japan Today」 <http://www.gender.go.jp/>
  - ・国立女性教育会館「NWEC Newsletter」  
<http://www.nwec.jp/English/publish/page01.php>
  - ・横浜市女性協会：「Newsletter」  
<http://www.women.city.yokohama.jp/english/newsletter/index.html>
  - ・大阪府立女性総合センター「ドーンセンター」：「Dawn」  
<http://www.dawncenter.or.jp/english/publication/edawn/index.html>
  - ・アジア女性交流・研究フォーラム：「Asian Breeze」 「Journal of Asian Women's Studies」  
<http://www.kfaw.or.jp/>
  - ・アジア女性資料センター「Voices from Japan」  
<http://www.ajwrc.org/english/sub/publications.html>
- 3) 日本の女性について書かれた図書・報告書など外国語コレクション
  - ・東京ウィメンズプラザ「女性情報資料案内」  
<http://www.tokyo-womens-plaza.metro.tokyo.jp/contents/library.html>
- 4) 海外のNGOを紹介しているサイト
  - ・横浜市女性協会「海外NGO情報検索」  
[http://www.women.city.yokohama.jp/kaigai/grp\\_form.html](http://www.women.city.yokohama.jp/kaigai/grp_form.html)

再構築するポータルでは、ここに挙げたサイトから発信される情報を、機関との連携を図りながら、新しい形で提供できる可能性を考える必要がある。また、学術情報の個人文献にも注目する必要がある。コレクションや文献データベースの情報収集は常に必要になると考える。

## ②海外の女性情報サービスの事例

- 1) Mapping the World Database <http://www.iiav.nl/eng/databases/mapping/index.html>  
NWECでもすでに登録をしているが、女性情報データベースを提供する世界各国の女性センターをカ

バーするデータベースとしては、オランダのIIAV (International Information Centre and Archives for the Women's Movement) が、コーディネートしている Mapping the World of Women's Information Services and Centres Database がある。これは1998年の Know How Conference を契機に構築されたものである。1999年に“Women's information services and networks: a global sourcebook”として出版されているが、オンラインデータベースとして、140カ国、375機関が登録されている。このデータベースは、オンライン登録が可能であり、毎週データが更新されるというものである。さらに、1.機関・団体名、2.国、3.言語、4.機関・団体種、5.コレクション、6.フリーテキストのインデックスガイド、レファレンスガイドがあり、グローバルで最新の情報提供を行っている。

### 2) WomenWatch

<http://www.un.org/womenwatch/>

グローバルなデータベースとしては、国連のサイトである WomenWatch がある。国連の統計データ、会議情報、また各国のナショナルマシーナリーの情報の提供も行っている。

上記二つは、世界的な女性情報提供のサイトとして、有効に活用したいものである。活用については、英語で提供されているサイトでもあり、概要、活用方法や検索方法の日本語ガイドをつけて、利用を促すサービスも考えられる。また、Mapping the World Database については、現在日本では、3団体が登録しているが、日本からの発信という観点では、登録を促すPRも必要であろう。

### 3) 女性学会議情報

- ・Women's Studies Conferences

<http://www.conferencealerts.com/women.htm>

世界的な学会・フォーラムのサイトのなかの女性関連の学会の情報サイトである。国際会議の場合は、タイムスパンが長い情報提供が必要であろう。また、日本の会議も、女性学のみならず関連分野の学会などの情報についても必要であろう。

[参考：日本の学術関係会議情報サイト]

- ・日本学術会議「学術研究集会等開催予定」

<http://www.scj.go.jp/gakkai/index.html>



- ・国立情報学研究所「学協会情報発信サービス」  
http://wwwsoc.nii.ac.jp/

会議情報は、アメリカを例にとるならば、女性学関連のサイトでは、イベントカレンダーとして国内外の情報提供がされている。代表的なサイトと検索のためのポイントを示すことが必要であろう。

- ・Feminism and Women's Studies <http://feminism.eserver.org/>
- ・National Women's Studies Association <http://www.nwsa.org/>
- ・Feminist.com <http://feminist.com/>
- ・Women's Studies Librarian's Website University of Wisconsin System  
<http://www.library.wisc.edu/libraries/WomensStudies/>

国別のサイト情報については、“Mapping Database”登録の機関が各国・各エリアの情報提供をしている。国内とあわせて、重要な会議・フォーラムはNWECのサイトとして情報提供が可能であれば、利用価値が増すものと考えられる。

### (3) 利用者から見た NWEC データベースの評価

ここでは「女性情報ポータル」再構築にあたって、現在 NWEC で提供している情報やデータベース、検索システムなどについて、女性・家族関連のコンテンツ及び「女性情報ポータル」の中心的なユーザーとな

る方のニーズと、改善点等について調査（モニター方式）を行ったので、その結果を述べる。

#### ①調査概要

- 1) 調査期間 2004年10月
- 2) 主な調査内容

- ・現在国立女性教育会館が作成・提供している WinetCASS、各データベース・横断検索システムの使い勝手について。
- ・回答者の関心分野・テーマでどのような情報をインターネットで得ているか、得たいか。
- ・女性情報を得るための総合窓口（ポータル）サイトとして必要なこと。

#### ②結果概要

- 1) 調査対象者の状況

表2に調査対象者と得られた回答数を示す。

- 2) 各データベースの評価

各データベースなどの評価について、結果を図1に

表2 調査対象者の回答数の状況（総数47件）

	回答数	構成比
女性/男女共同参画センター職員	6	12.8%
男女共同参画行政担当者	10	21.3%
研究者・学生・教員	7	14.9%
図書館関係者	7	14.9%
NGO・NPO関係者	5	10.6%
子育て支援関係者	5	10.6%
国際機関関係者	3	6.4%
メディア・企業関係者	4	8.5%

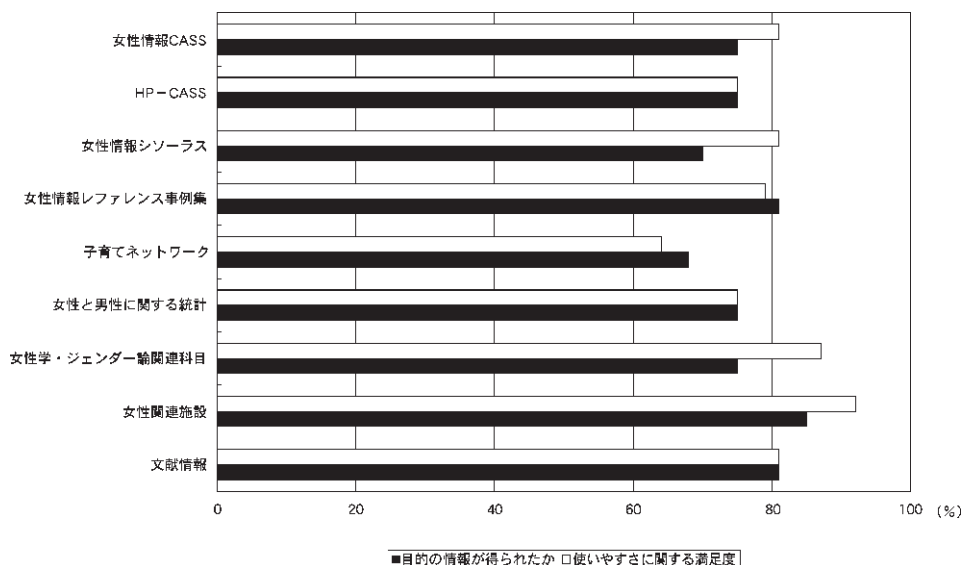


図1 各データベースなどの使いやすさに関する満足度の割合

示す。

また、各データベースごとに見られた自由記述で得られた改善点などを以下に列挙する。

(a) 文献情報データベース

- ・図書、雑誌に加えて地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事が検索できるので便利。
- ・シソーラスの意味がわかりにくい。

(b) 女性関連施設データベース

- ・多様な観点から検索できるので、女性関連施設に関するさまざまな情報を得るのに便利。
- ・データの更新が課題。施設によって更新状況が異なる。

(c) 女性学・ジェンダー論関連科目データベース

- ・大学でジェンダー学を担当している講師が検索できるので、自分の事業のときに依頼する参考資料になる。他の女性関連施設での講師実績ともあわせて活用できるとよい。
- ・教員のプロフィール・サイトにつながるともつよい。

(d) 女性と男性に関する統計データベース

- ・分野・省庁ともによく考えられており、大変参考になる。
- ・データの更新にばらつきがある。

(e) 子育てネットワーク・データベース

- ・ネットワークは出来たり、なくなったり、実際に活動しているところと活動していないところもあるので、現状の把握を随時行うことや、その地域の行政担当者とも密に連絡をし、更新しないといけないと思う。

(f) 女性情報レファレンス事例集

- ・たくさん事例があがっていて、情報相談のイメージを掴むのに大変有益だと思う。

(g) 女性情報シソーラス

- ・女性情報シソーラスの確立整備は、又エックしか担い得ない貴重な機能と思う。

(h) HP-CASS

- ・リンク集ということで、もっともっと広がることを期待する。

(i) 女性情報 CASS

- ・便利。ただ、検索結果が完全かどうか疑問が残った。

これらの結果より、使いやすさや情報の内容に関しては概ね満足できる結果となっているが、「女性情報

ポータル」再構築にあたっては、自由記述で得られた改善点やポータルの機能に合わせた改訂が必要になる。

(4) 自治体の男女共同参画政策担当者及び研究者・学生に想定されるニーズの分析

これまでも述べたように、再構築される「女性情報ポータル」では、これまで NWEC のデータベースを十分に活用していなかった人々の利用の促進も考える必要がある。そこで、ここでは、想定される主な利用者のうち、自治体の男女共同参画政策担当者及び研究者・学生（特に法学、政治学、行政学の分野）について、必要とされる女性情報を考察する。現在 NWEC で提供しているメニューやコンテンツでは、これらの利用者のニーズに応えられているとは、残念ながらいえないであろう。

男女共同参画政策担当者や研究者等にとって必要とされる女性情報は、次のようなものが考えられる。

- ・法令
- ・男女共同参画・自治体の特色のある取り組み
- ・海外行政情報
- ・裁判例
- ・地域の NGO/NPO の活動情報
- ・調査・研究報告書（自治体、女性センター、NGO/NPO、地域グループが発行したもの）
- ・女性学・ジェンダー研究に関する学位論文、科学研究費成果研究のデータベース、国内外の研究情報
- ・女性史年表

ただし、こうした情報は、国、自治体の女性センターや NII（国立情報学研究所：National Institute of Information）のホームページ等ですでに公開されているものが多い。NWEC の既存のデータベースでも、キーワードを入力して、検索できるものもある。

しかし、一つの事項を検索すると、その事項に関する国や自治体、市民活動におけるさまざまな情報（法律、条例、行動計画、国会・地方議会会議録、審議会議事録、NGO/NPO からの要望等）が渾然一体として、かつ、大量に画面に現れることになる。その結果、サイト内の情報量が膨大になり、ヒット数の多さにとまどってしまい、どうしたらよいかわからなかったり、目的の情報にたどりつくことができなったりする悪循環が生じている。また、情報が網羅的に表示されて、内容がうすく、表面的な印象を与えてしまう。すなわち、現状では、行政担当者や研究者が必要とする、具



体的な情報を見出すことが困難である。

したがって、こうした膨大な情報を、「政策支援情報」、「研究支援情報」とするためには、まず、利用者が簡潔に、ポータルの表層でさがすことができるメニューやコンテンツを提供することが求められる。リンクについては、カバーする分野を拡充するだけでなく、分野ごとにまとめたり、リンク先のサイトに関する簡単な解説を添付したりする等、さらなる工夫が必要であろう。

### 3. 再構築する女性情報ポータルの機能要件の設計

ここでは、これまでの現状の分析結果を基に、再構築する「女性情報ポータル」の機能要件の設定を行った。

#### (1) 利用想定者とニーズ

これまでの分析結果やNWECのナショナルセンターとしての役割を考えた上で、再構築する「女性情報ポータル」は、図2に示す利用者を想定して、サイトにアクセスした最初の段階で、NWECが提供する情報資源で必要な情報を得られる仕組みを持ち、同時に他の情報源への統合検索サービスも提供するものとする。今後、女性情報シソーラスを普及させることによって、他の分野と連携したポータルとして発展して

いける可能性を持っている。

#### (2) 「女性情報ポータル」再構築の方針と概念設計

先に述べたように「女性情報ポータル」の利用者は、その目的やニーズから考えても、多岐にわたることが想定できる。「女性情報ポータル」の再構築にあたり、現状での条件を整理し、基本方針として次の事項を策定した。

- ・NWECが提供する「女性情報ポータル」は女性情報のナショナルセンターとして、広範囲の女性情報へのアクセスが一元的にできると同時に、グローバルな女性情報ネットワークのフォーカルポイントとしての役割も担えるものであること。
- ・多様な利用者を想定し、操作性のよいポータルサイトにすること。
- ・NWECが既に構築しているデータベースと情報検索システムを改良し、新たな機能を加えて、より信頼性の高いものにする。
- ・他の専門情報サイトへのナビゲーション機能を向上させること。

これらの条件を充足するためには、サイトにアクセスした最初の段階で、NWECが提供する情報資源で

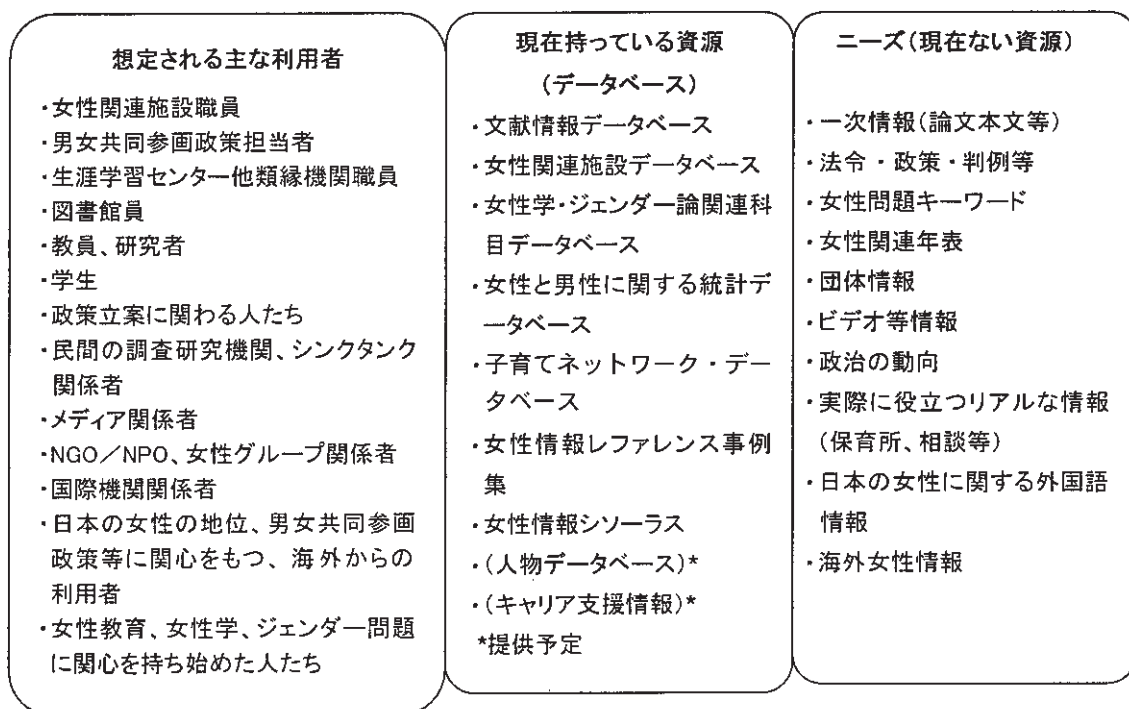


図2 想定される主な利用者に対応する資源の整理

必要な情報を得られる仕組みを持ち、同時に他の情報源への統合検索サービスも提供できることが必要である。また、女性情報シソーラスを活用することによって、女性情報の体系に基づく情報提供や他の分野と連携したポータルとして発展できる可能性も指摘できる。また、サイトの特色を鮮明にするために、現 NVEC サイト (<http://www.nvec.jp>) とは、独立したサイトとして構築することも必要である。そこで、上記の求められる条件を満たすように「女性情報ポータル」の概念設計を行い、以下のように内容を構成することとした。図3にサイト基本メニューの遷移図を示す。

各基本メニューの機能を以下に示す。

・ポータルサイト内検索

本サイト内で提供するコンテンツに対する全文検索システムを設け、フリーワードによる検索機能を実装する。

・女性情報カテゴリー検索

女性情報のカテゴリーや利用目的別に検索を可能にするために、ディレクトリ型のメニューを提供する。選択した内容に応じて、次画面のコンテンツナビゲーションでより詳細な情報を提供する。女性情報のカテゴリー分類については、NVEC で提供している女性情報シソーラスのカテゴリーと内容を利用する。

・データベース横断検索

現在 NVEC より提供している WinetCASS の機能を強化し、文献情報データベースなどや関係各機関データベースを横断検索できる機能を実装する。

・コンテンツナビゲーション

内容や目的に応じてある事項を検索した場合、一般的にはその事項に関する様々な形態の情報が検索できることになる。現在 NVEC で提供している情報も書誌情報や統計情報などその内容は様々であり、それらの情報が渾然一体としている状態では利用者はなかなか目的の情報にたどり着けない可能性が高くなる。そこで、特定の内容で検索し得られた2次情報に対して、情報の提供形態や利用目的、提供先機関の情報、情報の詳細内容などによって分類・整理を行い、コンテンツに対するナビゲーションが可能な機能を実装する。将来的には、コンテンツナビゲーションの機能にレファレンス事例やパスファインダーなどの案内情報、利用者からの情報提供などを付加することにより、より充実した検索機能を実装できるものとする。

これら基本メニューの他に、サイト全体の使い方に関する説明ページや用語解説ページ、更新履歴、新着情報提供ページ、利用者コミュニティ支援ページなどを設けることも考えられる。

(3) 現 NVEC が提供するデータベースの改良点

(2)で述べたように「女性情報ポータル」の概念設計を行った場合、現在の NVEC で提供している既存のデータベースに関しては、現行の形態で提供するのはなく、「女性情報ポータル」での考え方にあわせてその検索方法や情報の提供方法を見直す必要がある。ここでは、「女性情報ポータル再構築ニーズ調査（モ

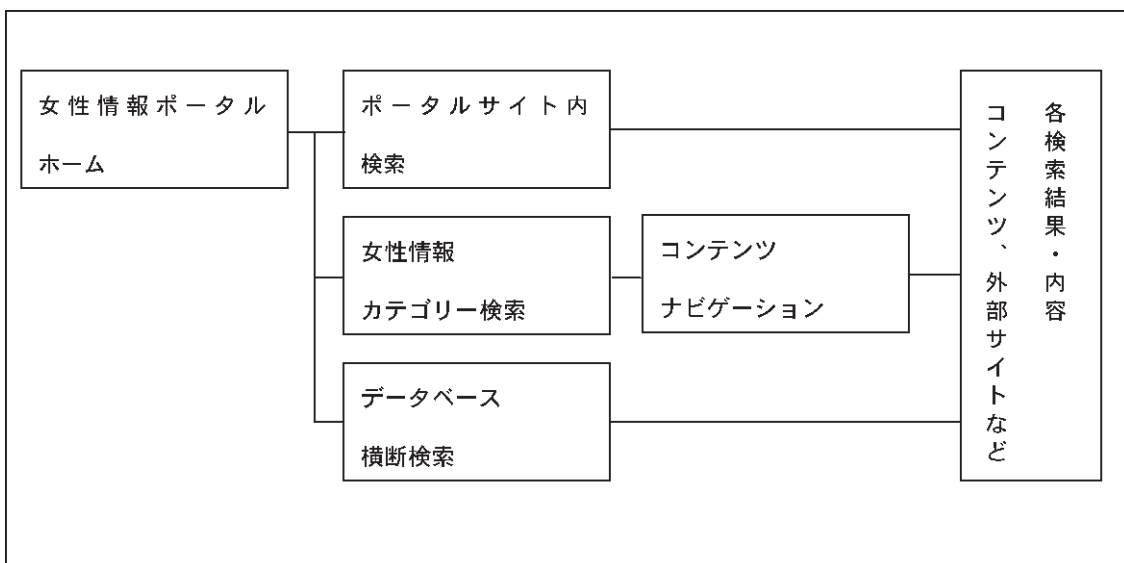


図3 「女性情報ポータル」基本メニュー遷移図





ニター方式)」で得られた結果を基に、現在のデータベースや検索システムである WinetCASS の改良点を整理する。

#### ①すべてのデータベース対象

- ・各種問い合わせに対応できる問い合わせ先（メールアドレス）の提示
- ・サイトマップの提示とサイト上での位置の表示、ナビゲーションボタンの設置
- ・すべてのデータベースの検索方式の統一
- ・使用用語などの解説・説明、使い方の統一（シソーラスなど）
- ・データベースの選定に関する説明や内容の解説の充実
- ・検索したい情報がヒットしない場合のガイドの充実（シソーラス等の利用）

#### ②文献情報データベース

- ・検索した結果の表示方法の拡充（種類別、並び替えなど）
- ・基本検索と詳細検索の位置づけの整理と他データベースとの検索方法の統一

#### ③女性関連施設データベース

- ・情報の幅広い収集
- ・共通検索と個々の検索の関係の整理
- ・検索結果画面の表示方法の工夫とナビゲーションボタンの設置

#### ④女性学・ジェンダー論関連科目データベース

- ・情報の収集からデータベース化、公開までのスケジュールの掲載
- ・丁寧検索のみの方が探しやすいように思う。
- ・対象学部の学系の時代に合わせた見直し

#### ⑤女性と男性に関する統計データベース

- ・説明、使用用語の統一と例示の明確化
- ・データベース収録内容の説明提示
- ・リンク先の充実

#### ⑥子育てネットワーク・データベース

- ・複数ある検索方法の整理と検索方式の統一
- ・絞り込み検索への対応
- ・利用方法など解説の充実
- ・得られた検索結果に対するリンク情報の提供
- ・掲載情報の拡充

#### ⑦女性情報レファレンス事例集

- ・サイト内での事例の掲載場所や検索方法の改善

- ・フリーワード検索の充実
- ・関連機関や参考事例、グループなどへのリンク情報の提供

#### ⑧女性情報シソーラス

- ・操作性の向上
- ・一般利用者が気軽に親しみやすく利用できる方法の検討
- ・凡例・説明の充実

#### ⑨HP-CASS

- ・表示順序の整理、配列の系統性
- ・情報の鮮度、リンク切れへの対応

#### ⑩女性情報CASS

- ・絞り込み検索への対応
- ・横断検索システムの位置づけの整理
- ・検索時間短縮の問題

以上がニーズ調査による意見を整理したものである。その中で特に「子育てネットワーク・データベース」については、プロジェクト委員会で下記の検討を行った。

- ・変化が激しい分野であること、より密着した地域情報が求められる分野であることを考えると、それを会館で収集・公開する必要性はあるか？（現DBは実際に困っている人が使えるものではないのでは）
- ・DB というよりは子育て支援情報へのナビゲーション機能に特化した方がより有益ではないか。
- ・ナビゲーションの対象：子育て支援策、各都道府県の子育てグループ情報が掲載されているサイトへのリンク（現在、リンク集に類似のものあり）、各都道府県の相談窓口へのリンク（家庭教育手帳の各都道府県版に掲載あり）など。
- ・ナショナルセンターとして、全国が一覧できるものを作成する。

#### (4) 「女性情報ポータル」の機能要件

「女性情報ポータル」の構築により様々な効果が期待できるが、それはサイト構築者と利用者双方にメリットがあることが望ましい。利用者側は、必要な情報を効率的に得ることを目的としてサイトを利用することになるが、そのためにサイト構築者側では、情報提供業務の効率化を実現し、結果として情報提供の即時性や情報の鮮度が確保できることが期待される。これらの「効率化」を実現するために必要なポータルサ

イトとしての要素は、次のものがある。

・多様なコンテンツへの簡便なアクセスの実現

メニュー構成のわかりやすさやサイトの情報検索を行えることで、必要な情報に対して簡単にアクセスできること。

・ナレッジマネジメント

有効な情報を1つの入り口（ポータル）から入手することができること、また有効な情報への道筋が特定の基準（体系）によって示されていること。

・既存の複数システムの結合

複数のアプリケーションがポータルと連携することによって作業を簡略化できること。また、既存のデータベースシステムなどとシームレスな連携が図れ、情報を結合できること。情報の構築に当たって、機関間の連携が図れること。

これらの要素を充足するために技術的な要素としては、以下のものが必要になる。

・コンテンツの集約

ネットワーク上にあるコンテンツをわかりやすく表示する機能

・パーソナライズとセキュリティ

ユーザーごとにカスタマイズでき、コンテンツへのアクセス制限を管理する機能

・アプリケーションの連携

HTTPやWebサービス、独自プロトコルを用いたアプリケーションへの接続を確保する機能

・シングルサインオン

一度ログインするだけで、すべてのコンテンツが利用可能になる機能

現NWECのホームページより提供されている情報は、女性情報関連のコンテンツだけでなく、NWECの案内情報なども含まれているため、ポータルサイトとして見た場合には、上記の要件を充分には充足しないと考えられる。ポータルサイトとしての枠組みをより鮮明にするには、女性情報提供関連のコンテンツを整理・集約し、女性情報の提供というコンセプトを明確にした独立したサイトとしての機能を整え、管理運用にあたる必要があると考える。すなわち、ポータルサイトは利用者が提供されているサービスを利用するための入り口と捉え、そのために必要な機能を効果的

に提供できることが重要である。以下に機能と仕様についての要件をまとめる。

①アクセス支援機能

利用者の条件によって、使いやすいサイトの条件は異なる。NWECポータルサイトも様々な利用者が想定できるが、そのニーズも多様であることが想定される。また、アクセシビリティを向上させるための手当も必要になる。

多様な利用者を想定した場合に、コンテンツへのアクセスを向上させるための手段の一つとして、利用者の視点からパーソナライズを図る方法がある。これは、利用者の認証とカテゴリズに基づき利用者にあったページを作成できるようにするものである。利用者独自でページを作成できるような高度な機能を持つサイトもあるが、利用者別の入り口となるメニューを用意し、その状況に応じてコンテンツとサービスを配置することも実現可能である。

もう一つの手段として、提供するコンテンツの視点から統合検索できる機能を設け、どう探したらよいかわからない利用者に対して、情報検索の入り口になるものを準備する方法もある。情報のインテグレーションにより、一般の検索エンジンと同様な操作感が得られ、誰でも簡単に利用できる可能性があるが、情報検索の専門家にとってはやや冗長な操作を強いる場面も想定される。

サイトのアクセシビリティに関しては、高齢者や障害者のWebサイト利用が可能のように、2004年にJISよりウェブサイトの設計指針が示されている。サイト作成にあたって、多数の項目についての実現方法が示されているので、こうした指針も参考にする必要はある。

②情報検索機能

情報検索機能は、ポータルサイトでは中心の機能である。サイト内、サイト外の情報に対して、如何に効率よく検索できるかがポイントになる。この問題を考える際には、サイトの利用者がどのような手順で情報検索を行うか、というモデルを想定して機能を考える必要がある。一般的なモデルと必要な機能は以下のように整理できる。[中山 2004]

・問題の定義、情報ニーズの選別

オンラインでのレファレンス、チュートリアル機



能

- ・情報探索の戦略の策定  
情報源の範囲や利用順位を決定するためのコンテンツへのナビゲーション機能
- ・情報源の所在確認、情報源へのアクセス  
メタデータ検索、全文検索、シソーラス検索などの機能
- ・情報の獲得、情報の抽出  
様々なデータベースを渡り歩くことなく統合検索ができ、検索結果から1次・2次情報へ直接アクセスできる機能
- ・情報の統合、組織化  
目的に応じたアウトプットができる機能
- ・検索結果の評価

これらの一連の情報検索行動が、1つの入り口から入ってそこで解決できることが望まれる。現在のサイトの検索全体では、WinetCASSの機能を拡充し、総合的な情報検索の入り口に耐えうる機能を実装することが望ましい。また、個々のデータベースごとにその操作方法がやや異なる場合がある。当然のことながら統一を図る必要がある。上記の情報検索行動の中で、現在のサイトでは提供されていないサービス（オンラインでのレファレンス、チュートリアル機能など）もある。それらについては、適当なものを準備することが望ましい。

### ③ナビゲーション機能

ナビゲーションとは、サイト内の情報を見つけるために用いられる方法のことである。ナビゲーションの目的は第一に利用者が現在位置を把握して、目的のページにたどり着けるようにするためである。サイトのナビゲーション機能により、ユーザが効果的にかつ効率よく情報を見つけ出してアクセスできるようにする必要がある。サイトマップなどの情報もこの機能に該当するものである。

利用者に現在位置を知らせる方法としては、リンク先のページの見出しと一致したテキストリンクとサイト上のユーザの位置に関係のあるURLでパスと階層の情報を提供することがある。その他には、クリックされたリンクの色を変えることなどもある。また、1ページの分量が多いページでは、ページ上部でそのページ内にあるコンテンツを示すページ内リンクを目

次（コンテンツリスト）として提供することも効果的と考える。また利用者の混乱を避ける意味で、ナビゲーションの選択肢のないページはつくるべきでないし、そのようなページへユーザを誘導しないことも重要である。

また、サイトに新しい情報を追加したり、既存のコンテンツを修正した場合には、「新着情報」などのメニューにより、サイトの状況を知らせる必要がある。

### ④コミュニティ機能

最近の傾向として一般のポータルサイトでは、情報提供者と利用者、利用者間での情報交流を支援する機能として、様々なコミュニティ機能を実装することが多くなっている。これらの機能はSNS（Social Networking Site）とも呼ばれ、参加者同士が新たな関係を広げることを目的に開設される。誰でも自由に参加できるサービスと何らかの参加資格が要求される場合（限定された利用者のみ）がある。

実装の方法は様々であるが、その利用様態に応じて、電子掲示板、ブログ、プロフィール公開、会議室、メーリングリストなどがある。利用者から見た場合には、目的を同じにする利用者との情報交換ができることにより、得られるメリットは大きいと考えられる。また、こうした利用者はサイトへのアクティブなアクセスが期待できるとの報告もある。

現在のNWECホームページでは、女性情報レファレンス事例集が提供されているが、ここでは提供されている事例に対して、利用者が新しい情報の追加などのフィードバックを行うことができる。これは、専門的な知識を共有することができるという意味で、コミュニティ機能の一形態と捉えることができる。

コミュニティのあり方は、コンテンツの種類によっても影響があるが、利用者や情報提供者との双方向性を確保するという意味で、今後重要な機能になると考えられる。特に、「女性情報ポータル」では、関連諸機関との連携強化をより促進する必要があると考えられるので、利用者同士のネットワーキングを支援するという視点から、何らかの機能を実装することが望ましい。

### ⑤仕様・内容として検討すべき事項

アンケートの結果から、現在のサイトや情報提供の方法に関して様々な要望があることがわかる。以下、

サイトの仕様として検討すべき事項を列挙する。

- ・最新の統計資料への対応
- ・女性学・ジェンダー研究関係の学位論文や科学研究費成果研究のデータベース、国内外の女性学・ジェンダー研究関連研究所の情報との連携
- ・男女共同参画に関する法令・条例などが一覧できるもの
- ・女性施策関連部局との連携機能、窓口への案内情報
- ・女性情報の最新情報が一覧できる機能

これらの要望から見えることは、女性情報に特化した内容に関して、「女性情報ポータル」でその情報の精選・整備を行い、利用者に対しては効率よく情報を提供する機能を求めているということである。また、ニュースのような即時性のある話題に関して、「女性情報ポータル」で扱う情報の枠組みとしての要望があることが分かる。コンテンツマネジメントの視点から見た場合は、これらのデータは、その種類や扱い方に差異があるものであるが、利用者の視点に立った場合には、これらの情報が網羅的・横断的に提供されていると、より使い勝手のよいサイトになる可能性があるということである。システムの機能要件として、このようなコンテンツマネジメントが可能な仕組みを導入することも検討する必要がある。

#### 4. 「女性情報ポータル」の運用

ここでは、「女性情報ポータル」の運用方法についての留意点を述べる。

##### (1) データベースのメンテナンス体制

データベースには、検索効率の良さと同時に、提供されるデータの鮮度が求められる。そのために、恒常的なデータの更新などのメンテナンス作業が必要になるが、一般的には大変な手間と労力、費用がかかる。独立行政法人として一層の業務運営の効率化が求められていることから鑑みて、データベースのメンテナンスにはあまり人手と経費をかけないようにすることが必要である。しかしながら、ポータルサイトとしての役割を果たすためには、質的な面も求められる。そのために、人的資源も含めたメンテナンス体制を整え、そこでしっかりとした計画を立て、それを確実に履行することが求められる。

データベースの内容や種類に応じて、下記の視点の

ように分類を行い、その分類に従ったメンテナンス方法を構築することが望まれる。

- ・データベース更新の期間（毎日／1～数カ月／半年／1年／それ以上）
- ・データ更新の方法（更新／追加 古いデータの扱い）
- ・データベースの形態（DBMS 利用／ホームページ形式など）
- ・データ収集の方法（オンライン／オフラインなど）
- ・データ構築の方法（NWEC／共同／連携／外注など）

例えば共同構築しているデータベースについては、共同構築をする機関同士でお互いにメリットを感じられるようにすること、またよりわかりやすい入力画面の構築やデータエントリー方法の共通化等が必要であろう。

また、リンク集や、HP-CASSの横断検索先へのリンク及び取得されたページのリンク切れの削除など、自動化できることは自動化することが絶対に必要である。

同時に、事故などがあった場合のバックアップや停電対策などについても十分な準備が必要である。それと同時に、データの流出などが起こらないような堅牢なシステムを構築する必要もある。

##### (2) ナビゲーション情報の組織化

利用者に対して、より効率的に情報を提供するためには、データの質が求められると共に、よりわかりやすく目的の情報までたどり着けるための仕組みが重要になる。また、データを更新したり、内容を変更した時など、その状況が的確に利用者に伝わることも必要である。

わかりやすく目的の情報に導くためには、メニューの構成や検索システムの使いやすさも重要であるが、それと同時にポータルサイトで提供されている情報の全体像がつかみやすいことと、それを基にしたナビゲーション情報が提供されることが望ましい。

サイトマップなどはその一例であるが、単にサイトの構成を示すだけでなく、利用者の目線にたったナビゲーションを実現することが望まれる。また、データ



の更新時などには、その情報を新着情報として提供できる機能も必要である。

最近のサイトのコンテンツ管理の方法として、コンテンツマネジメントシステムを用いる方法があるが、こうしたシステムの導入も検討に値すると考えられる。

### (3) 利用者グループによる参加型の運営

現在すでに、会館の女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会参加館については、yahooの機能を使ってNWECが管理運営するメーリングリスト（ML）を立ち上げ、女性センター情報担当者同士の情報交換が行われているところであるが、このようなコミュニティ機能を、ポータル上である程度対象者を絞ったMLや会員制の掲示板等として提供することが考えられる。

現在、「子育てネットワーク・データベース」、「女性と男性に関する統計データベース」、「女性情報シソーラス」には掲示板を設けているが、イベント情報が掲載されている子育てネットワーク・データベース以外は書き込みがほとんどないことから、これらについては整理の必要がある。データベースの改善点で述べられているように、各データベースの画面に、疑問点等について直接尋ねることのできるメールアドレスを掲載し、寄せられた疑問点と回答から、共有可能なものをFAQとして掲載することも考えられる。

また前述のように、レファレンスについては、例えばブログの機能を活用して、サポートメンバーによるオンラインレファレンスを行うことなどが考えられる。

### (4) システムの管理、運営

システムの管理・運営についても、データベースのメンテナンス体制と同様に人手と経費をかけないことが求められている。しかし、NWECの提供しているデータは、会館の相当な労力とともに、近年の共同構築の成果として、女性関連施設、大学、サポートメンバーの協力で蓄積されたものであり、維持管理には、組織として万全の体制を作る必要がある。

特に、システムの管理では、その業務内容はマニュアル化することによって、自動化できる部分と人手を介する部分が明確にできる。省力化を図る意味でも、管理・運用に関わる作業分析を行うことが必要と考える。

### (5) 関連機関との連携、共同構築

現在関連機関との連携としては、女性情報レファレンス事例集を、全国の女性関連施設の情報担当者をサポートメンバーとして構築していることが挙げられる。今後は事例の提供のみではなく、例えばブログの機能を活用して、サポートメンバーによるオンラインレファレンスを行うことなどが考えられる。

また、共同構築は現在「女性関連施設データベース」「女性学・ジェンダー論関連科目データベース」にWeb上で登録・更新する機能がある。但し、Web上での回答にはばらつきがあり、回答する側にもメリットが感じられるようにすること、なるべくデータベース全体に整合性があるようにすることが課題である。

## 5. おわりに

女性情報ポータル再構築に関して、ポータルサイト構築に当たっての女性情報提供の分析、再構築する女性情報ポータルの機能要件の設計、女性情報ポータルの運用の点から検討を進めてきた。

ポータルサイト構築に当たっての女性情報提供の分析では、インターネットで提供されている女性情報の現況、国内女性関連施設ホームページやインターネットにおいて英語で提供されている女性情報の事例の分析、並びに、利用者から見たNWECデータベースの評価を行った。これらの結果より、多様な女性情報が提供されている現状が明らかになったと同時に、ポータルサイトによる多数の情報を効率よく検索する方法の確立が必要であることが確認できた。また、NWECのデータベースなどに関しては、使いやすさや情報の内容に関しては概ね満足できる結果となっているが、女性情報ポータル再構築にあたっては、自由記述で得られた改善点やポータルの機能に合わせた改訂が必要になることが明らかになった。

再構築する女性情報ポータルの機能要件の設計では、「女性情報ポータル」の概念設計、及び基本的なメニューを構築し、サイトの枠組みを明確にした。また、現在提供しているデータベースなどに対するニーズを整理し、「女性情報ポータル」への統合に向けての改良点を明らかにした。同時に、サイト構築全体に関わる機能要件を決定した。

女性情報ポータルの運用では、実際に運用に当たって配慮や考慮が必要な項目を洗い出し、それに対する



方向性や解決方法を整理した。定常的な運用方法を確立することが、より使い勝手がよいサイトにするためには必要不可欠な事柄であると考ええる。

以上の検討の結果から、女性情報へ総合的にアクセスできるポータルサイトの再構築の可能性を提示できたものとする。

〈参考文献・資料〉

- 小山直子他 2005 「ウェブリンク解析にみるジェンダーコミュニティ」『F-GENS Journal』No.3 306-311
- 増永良文他 2001 「ジェンダー関連Webサイトのコミュニティ分析とポータルサイト構築」『「グローバル化とジェンダー規範」に関する研究報告書』101-122
- 中山正樹 2004 「国のデジタル・アーカイブ・ポータルの構築」『情報の科学と技術』54巻9号 453-460
- Web アクセシビリティを理解し実践するためのポータルサイト Infoaxia  
<http://www.infoaxia.com>

(あだち・かずひさ 十文字学園女子大学助教授・国立女性教育会館客員研究員)

(あおき・れいこ 越谷市男女共同参画支援センター所長)

(あまかわ・ようこ 国立女性教育会館客員研究員)

(おおにし・さちよ お茶の水女子大学生生活科学部講師)

(もり・みち 国立女性教育会館情報課専門職員)